

# 新型コロナウイルス感染症下での社会福祉学部の学内代替実習の 成果と課題

～受講生へのアンケート結果の分析に基づいて～

日本福祉大学 社会福祉学部 保 正 友 子

日本福祉大学 社会福祉学部 浅 原 千 里

日本福祉大学 社会福祉学部 伊 藤 美智予

## I. 本論文の背景と目的

2020（令和2）年度は新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）に翻弄された1年となった。大学の授業も例外ではなく、ほとんどがZoomやパワーポイントの動画等による遠隔授業への変更を余儀なくされた。なかでも、福祉現場に身を置き、現場での空気感や多種多様な関係性のなかで学びを行う、社会福祉学部3年次（編入生は4年次）の9月・10月に実施される、ソーシャルワーク実習（以下、現場実習）が受け入れ不可になり、現場に出向けなくなるケースが続出することとなった。

文部科学省と厚生労働省は2020（令和2）年2月28日に、都道府県介護福祉士・社会福祉士養成施設主管部局、都道府県精神保健福祉士養成施設主管部局等に対して、「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について」を発出した。そのなかの「1. 学校養成所等の運営に係る取扱い」には以下の記載がある。

- (1) 学校養成所等にあつては、新型コロナウイルス感染症の対応等により、実習中止、休講等の影響を受けた学生等と影響を受けていない学生等の間に、修学の差が生じることがないように配慮するとともに学生等に対して十分な説明を行うこと。
- (2) 学校養成所等にあつては、新型コロナウイルス感染症の影響により、教員の不足や施設・設備が確保できない等、十分な教育体制を整えることが困難な場合が生じることが想定される。こうした学校養成所等においては、できる限り速やかに十分な教育体制を整備することが望ましいが、当面の間は、非常勤教員の確保や教室の転用・兼用等により、必要最低限の教育体制を整えることとして差し支えないこと。
- (3) 学校養成所等にあつては、新型コロナウイルス感染症の影響により実習施設の受け入れの中止等により、実習施設の変更が必要となることが想定される。実習施設を変更する際には、あらかじめ当該変更に係る承認を受けることとされているが、今般の新型コロナウイルス感染症を受け迅速な対応が必要であることに鑑み、承認申請に係る時期については弾力的に取り扱って差し支えないこと。実習施設の変更を検討したにもかかわらず、実習施設の確保が困難である場合には、年度をまたいで実習を行って差し支えないこと。なお、これらの方法によってもなお実習施設等の代替が困難である場合、実状を踏まえ実習に代えて演習又は代替実習等を実施することにより、必要な知識及び技能を修得することとして差し支えないこと。

さらに、本学も加入している一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟より、2020（令和2）年4月3日付で「会長声明 新型コロナウイルス感染症拡大傾向に伴う社会福祉士及び精神保健福祉士養成教育に対する考えについて」が発出された。そこでは、「私たちソーシャルワーク専門職を養成する教育団体としては、ソーシャルワークの支援を必要とする利用者の生命を第一義に考え、利用者の権利と最善の利益を守るため、当面本年6月末日まで、実習先となる社会福祉施設・医療機関等の実習受入れに関する意向にかかわらず、学生の実習実施を見合わせることを、本連盟から会員校に願う」という意向が示された。これを受けて、福祉経営学部（通信教育）が実習中止を決定した。

そのため、社会福祉学部でもコロナ下での実習中止・代替措置への転換を視野に入れ、社会福祉実習教育研究センターをプラットフォームに年度当初から対応策を検討してきた。それが学内代替実習（以下、代替実習）の実施である。毎日学生が視聴するオンデマンド教材は、福祉経営学部（通信教育）が3分の2、社会福祉学部が3分の1を作成した。また、社会福祉学部代替実施に際しての様々なマネジメントは、代替実習総括担当者の保正、社会福祉学部の実習教育委員長の浅原、実習教育委員の伊藤という3人の運営委員で、毎週のように検討を行い具体化した。今回のことは、社会福祉士を養成するどの学校・学生・教員にとっても未曾有の事態であり、全てが手探り状態であった。

そして、社会福祉学部では10月に95人の学生が代替実習を実施し、大きな問題なく終了することができた。その後、学生や担当教員を対象に、代替実習の満足度や学べた点、今後の改善点に関するアンケート調査を実施したため、本論文は学生のアンケート調査の分析により、代替実習についてどのように捉えていたのかを明らかにする。そして、次年度以降も実施の可能性がある代替実習をより良いものにするため、成果と課題について示唆を得ることが目的である。

## Ⅱ. 代替実習の概要

### 1. 代替実習を行った学生数・クラス編成

2020（令和2）年度当初よりいくつかの実習先から中止の連絡があったが、2020年8月6日に「愛知県緊急事態宣言」が発出されると、日を追って実習受け入れを中止する施設が増し、代替実習を行う学生は最終的に321人中95人となった。このうち19人の学生は、部分的に現場実習を行い、不足する実習時間数を代替実習で補う形をとった。

概ね地域別に編成しているソーシャルワーク実習指導Ⅱ（以下、実習指導）クラスとは別に、実習分野別の代替実習クラスを編成した。内訳は、本来行うはずだった現場実習では、高齢分野65人（3クラス）、障害分野13人（1クラス）、児童分野17人（1クラス）である。1クラスを複数の教員が交代で担当し、毎日の振り返りを行った。

### 2. 実施時期・時間・内容

実施時期は2020（令和2）年9月29日（火）～10月30日（金）で、土日休とした。1月と2月に予備日を設定したが、実際は期間内で終了したため予備日は不要となった。

実習時間は、大学の授業時間である1限目から5限目に準じて、出勤を9時20分、退勤は18時15分とし、1日につき休憩時間を除く7時間半に設定した。それを24日間、計180時間行った（図1）。

9：20～14：55（休憩時間は実習時間に含めない）		15：05～16：35（4限）	16：45～18：15
オンデマンド教材視聴	個別課題シート記入	クラス（月～木曜：Zoom、金曜：対面）	日誌記入

図1 代替実習の1日のスケジュール

月曜日から木曜日までの4限目は、1人の教員が1クラスを担当し、Zoomにより個別課題シートの振り返りを行った。そして金曜日のみは、学生は大学に登校して振り返りを行った。その際、担当教員は前日までに学生が提出した実習日誌の点検と出席簿への押印を行い、学生の学習状況の把握に努めた。

さらに、実習3週目（15日目～18日目）には個別支援計画を作成するため、4日間の学内での集合授業を行った。現場実習でも3週目から4週目にかけて、1人の利用者を選定して個別支援計画を作成するため、それに準じて実施した。分野別で3クラスを編成し、各クラスで実習指導者1人以上にゲスト講師として来校してもらい、学生がアセスメントのため実習指導者より情報収集を行った。4日間の流れは図2のとおりである。

	午前	午後
1日目	ケアプランとは何か・ケアプランの作成方法の講義	実習指導者を利用者などに見立てたロールプレイによる情報収集
2日目	収集した情報のアセスメントシートへの書き込み・不足している情報の再収集と書き込み	
3日目	ケアプラン作成とスーパービジョンの実施（個別で作成→グループで作成）	
4日目	クラスでのケアプランの発表	振り返り

図2 ケアプラン実習の流れ

代替実習全体のプログラムは図3のとおりである。

オンデマンドコンテンツは、福祉経営学部との共同作成で、厚生労働省の実習カリキュラムおよび一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟の実習ガイドラインが示す教育内容を網羅するよう編集した。架空の社会福祉法人を実習先に見立て、主となる配属施設は法人が運営するデイサービスセンターを設定した。また、法人内の種別の異なる事業所にも配属されて学ぶイメージで、職場・職種・ソーシャルワークが理解できるように教材を作成した。

ただし社会福祉学部の代替実習では、前述のように実習3週目は大学における個別支援計画作成を行ったため、その間はオンデマンドコンテンツの視聴は行っていない。

※1 各実習日のオンデマンド教材は公開日のAM7:00～ 視聴できるようになります。

※2 実習スーパージョンは実習指導Ⅱクラス担当教員と調整してください。日時が決まったら書き込んでください。

→学内対面でクラス指導を実施する日（＝大学に来る日）

	実習日	実習段階	実習ガイドライン	実習評価項目 (Ⅰ－①②③④は各回共通)	実習場面	ねらい	内容	方法	※1 オンデマンド教材 公開日	※2 実習スーパージョン 日時
9月29日	火 1日目	職場実習	(15) (16)	Ⅱ－①	法人 (老人デイ)	・代替実習の全体像と学習目標を理解する。 ・法人理念を具現化するためのプロセスを学ぶ。	①Zoom：実習オリエンテーション ②実習施設（「社会福祉法人にちふく」の全体像）の紹介 ・法人の沿革、理念、組織 ・職員体制・法人内の事業所	Zoom / オンデマンド教材→課題シート→クラス指導 (Zoom) →実習日誌	9月29日	
9月30日	水 2日目	職場実習	(17) (18)	Ⅱ－①	法人 (老人デイ)	・実習施設における管理運営業務・体制を理解する。	①実習施設（法人）におけるソーシャルアドミニストレーション ・社会福祉法人における運営管理・社会福祉法人における財務管理 ・法人や施設内の各種委員会の運営・リスク管理 ・サービスの質評価・サービスマネジメント	オンデマンド教材→課題シート→クラス指導 (Zoom) →実習日誌	9月29日	
10月1日	木 3日目	職場実習	(1) (2) (11) (12) (19) (20) (21)	Ⅱ－②③	老人デイ	・老人デイサービスセンターの概要を理解し、利用者との適切なコミュニケーションを学ぶ。	①老人デイサービスセンターの利用者 ②実習施設（老人デイサービスセンター）の位置づけや社会的役割 ③実習施設（老人デイサービスセンター）における多様な職種	オンデマンド教材→課題シート→クラス指導 (Zoom) →実習日誌	9月29日	
10月2日	金 4日目	職場実習	(1) (2) (11) (12) (19) (20) (21)	Ⅰ－③④ Ⅱ－②③	居宅支援事業所	・居宅支援事業所の法的位置づけ（介護保険法との関連）を踏まえ、居宅介護支援事業所の役割と実際の業務を理解する。 ・ケアマネジメントの具体的な展開と老人DS等との連携を理解する ・ソーシャルワークの視点を踏まえたケアマネジメント（ケアプランの立案を含む）について学ぶ。	①居宅支援事業所の法的位置づけ ②ケアマネとして理解すべき法制度（介護保険、医療保険等） ③居宅介護支援事業所の役割と実際の業務の流れ ④ケアプランの立案 ⑤ケアマネジメントの具体的な展開と老人等との連携	オンデマンド教材→課題シート→クラス指導（学内対面）→実習日誌	9月29日	
10月3日	土 日									
10月4日	土 日									
10月5日	月 5日目	職場実習	(1) (2) (11) (12) (19) (20) (21)	Ⅱ－②③	障害福祉サービス事業所	・障害福祉サービス事業の業務、役割を理解する。	①当該施設種別の特徴と利用者像を理解する（障害特性に合わせた支援の重要性など） ②当該施設が取り組むソーシャルワーク（特に、メゾ、マクロレベルの支援）を理解する	オンデマンド教材→課題シート→クラス指導 (Zoom) →実習日誌	10月5日	
10月6日	火 6日目	職場実習	(1) (2) (11) (12) (19) (20) (21)	Ⅱ－②③	児童養護施設	・児童養護施設の意義（社会的養護の意義を含む）とFSWの役割を学ぶ。また、虐待対応の視点からの人権擁護活動や退所児童等に対する支援活動を理解する。	①児童養護施設の役割（社会的養護の意義を含む）を理解する ②ファミリーソーシャルワーカーの役割（家族再統合などを含む）を理解する ③虐待対応を含む権利擁護活動を理解する ④退所後児童に対する支援を学ぶ	オンデマンド教材→課題シート→クラス指導 (Zoom) →実習日誌	10月5日	
10月7日	水 7日目	職種実習	(11) (14)	Ⅱ－④	老人デイ	・ソーシャルワークを担う職種を理解する①（生活相談員の業務内容を説明することができる）	生活相談員の業務① ・日課としての生活相談員の業務 ・生活相談員の業務がもつ意味	オンデマンド教材→課題シート→クラス指導 (Zoom) →実習日誌	10月5日	
10月8日	木 8日目	職種実習	(18) (12)	Ⅱ－③④ Ⅳ－②③⑤	老人デイ	・ソーシャルワークを担う職種を理解する②（生活相談員が活用する文書書式、会議運営の方法を説明することができる）	生活相談員の業務② ・生活相談員が活用する文書・書式 ・多職種による会議の運営方法 ・業務や会議の記録の作成	オンデマンド教材→課題シート→クラス指導 (Zoom) →実習日誌	10月5日	
10月9日	金 9日目	職種実習	(8)	Ⅱ－④ Ⅲ－①～⑤ Ⅳ－①④⑤	老人デイ	・ソーシャルワークを担う職種を理解する③（生活相談員のソーシャルワーク実践の視点を説明することができる）	生活相談員の業務③ ・ミクロ、メゾレベルでのソーシャルワーク実践 ・生活相談員の働きかけの対象 ・ソーシャルワーク実践における価値規範・倫理	オンデマンド教材→課題シート→クラス指導（学内対面）→実習日誌	10月5日	
10月10日	土 日									
10月11日	土 日									
10月12日	月 10日目	SW実習	(5) (6)	V－①②	老人デイ	・個別支援計画の作成方法を修得する①（アセスメントができるようになる）	①老人デイサービスセンターを利用するAさんに対する個別支援計画の作成に関する講義（1） ・介護サービス計画と個別支援計画 ・個別支援計画作成のプロセスと求められる技法 ・個別支援計画作成プロセスにおける多職種連携 ・個別支援計画作成プロセスにおける当事者参加 ②個別支援計画作成に向けたアセスメントに関する講義と演習 ・アセスメントの手順と方法 ・ソーシャルワークのアセスメントの視点 ・アセスメントツール	オンデマンド教材→課題シート→クラス指導 (Zoom) →実習日誌	10月12日	



10月13日	火	11日	目	SW実習	(5) (6)	V-③④⑤	老人ディ	・個別支援計画の作成方法を修得する②（ニーズ設定からプランニングができるようになる）	①老人デイサービスセンターを利用するAさんに対する個別支援計画の作成に関する講義（2） ・アセスメントによるニーズの設定方法 ・支援目標、支援方法の設定 ・プランニングにおける当事者参加 ・プランニングシートの活用方法 ②個別支援計画作成に向けたプランニング演習	オンデマンド教材→課題シート→クラス指導（Zoom）→実習日誌	10月12日		
10月14日	水	12日	目	SW実習	(10)	V-④⑤⑥	老人ディ	・個別支援計画の作成方法を修得する③（個別支援計画のシートを作成し、発表することができる）	①老人デイサービスセンターを利用するAさんに対する個別支援計画の作成に関する講義（3） ・個別支援計画（案）が個別支援計画になるまで（他職種との会議、本人の同意など） ・原案のチェックポイント（ソーシャルワーカーとしての視点、本人・家族への配慮等） ②個別支援計画の発表とフィードバックに関する演習	オンデマンド教材→課題シート→クラス指導（Zoom）→実習日誌	10月12日		
10月15日	木	13日	目	SW実習	(4) (7) (8) (14)	Ⅳ-①⑤ V-①②③	特別養護老人ホーム	・特別養護老人ホームにおけるSWを理解する①（利用者像の理解とニーズ把握の方法を修得する）	①利用者像の理解とニーズの把握方法に関する講義と演習 ・生活相談員は、利用者の何を理解するのか ・利用者理解のための面接（技術や留意点） ・アセスメント面接の方法とツール ・生活場面における面接、ニーズの理解 ・本人のニーズ、家族のニーズ	オンデマンド教材→課題シート→クラス指導（Zoom）→実習日誌	10月12日		
10月16日	金	14日	目	SW実習	(7) (8) (9) (21)	Ⅱ-②③④ Ⅲ-⑤ Ⅳ-④⑤ V-①②③	特別養護老人ホーム	・特別養護老人ホームにおけるSWを理解する②（特養（入所施設）の社会的役割や生活相談員の業務を説明することができる）	①特別養護老人ホームの社会的役割に関する講義 ・介護老人福祉施設との関係 ・措置施設であることの意味（高齢者虐待などの社会的問題への対応） ②特別養護老人ホームにおける生活相談員の業務に関する講義 ・介護支援専門員との異同を含む ・重度の要介護者の意思表明・自己決定支援 ・重度要介護者の権利擁護	オンデマンド教材→課題シート→クラス指導（学内対面）→実習日誌	10月12日		
10月17日	土												
10月18日	日												
10月19日	月	15日	目	SW実習 （個別支援計画作成実習）	(5) (6)	Ⅲ-①②③④⑤ V-①②③④⑤⑥	各実習分野	・個別支援計画の作成方法について理解する ・情報収集の方法や留意点について理解する	4日間のプログラムのねらいと進め方 事例概要/実習指導者からの情報収集（公開アセスメント）/アセスメントシートへの書き込み/調べ学習	学内対面実習→実習日誌	—		
10月20日	火	16日	目	SW実習 （個別支援計画作成実習）	(5) (6)			・記録の方法について理解する ・アセスメントの方法について理解する	前日のふりかえり／不足している情報の収集／アセスメントシートへの書き込み	学内対面実習→実習日誌	—		
10月21日	水	17日	目	SW実習 （個別支援計画作成実習）	(5) (6)			・個別支援計画を作成する	前日のふりかえり／課題の抽出・個別支援計画案の作成／発表準備	学内対面実習→実習日誌	—		
10月22日	木	18日	目	SW実習 （個別支援計画作成実習）	(10)			・個別支援計画についてプレゼンテーションする ・個別支援計画の作成について振り返りを行う	前日のふりかえり／個別支援計画の発表／ふりかえり・まとめ	学内対面実習→実習日誌	—		
10月23日	金	19日	目	SW実習	(12)	Ⅱ-①② Ⅲ-①②③④⑤ Ⅳ-⑤	法人老人ディ	・社会福祉法人の地域に対する取り組みを理解する①（地域に対する公益的事業や各種行事の意義と運営方法を説明することができる）	①社会福祉法人の地域に対する公益的事業、地域と共同した活動に関する講義と演習 ②施設における各種事業に関する講義と演習 ・地域に開かれた行事の企画・運営 ・施設の社会化 ・地域への情報発信 ・ボランティアや実習生の受け入れに関する業務	オンデマンド教材→課題シート→クラス指導（学内対面）→実習日誌	10月19日		
10月24日	土												
10月25日	日												
10月26日	月	20日	目	SW実習	(13) (20)	Ⅱ-①② Ⅲ-①②③④⑤ Ⅳ-⑤	法人老人ディ	・社会福祉法人の地域に対する取り組みを理解する②（地域課題の解決に向けた取り組みを計画することができる）	①社会福祉法人の地域に対する取り組みに関する講義 ②地域を基盤とした住民と協働するソーシャルワークの講義と演習	オンデマンド教材→課題シート→クラス指導（Zoom）→実習日誌	10月26日		
10月27日	火	21日	目	SW実習	(9)	Ⅱ-①② Ⅲ-①②③④⑤ Ⅳ-⑤	法人老人ディ	・施設（法人）における権利擁護の取り組みを理解し、生活相談員の実践方法を修得する	施設（法人）における権利擁護の取り組みに関する講義と演習 ・人権擁護活動としての苦情解決の仕組み ・第三者情報の公表 ・権利擁護の取り組み例（成年後見、介護相談員、第三者委員） ・権利擁護の取り組みにおけるソーシャルワーカー	オンデマンド教材→課題シート→クラス指導（Zoom）→実習日誌	10月26日		
10月28日	水	22日	目	SW実習	(5) (20) (21)	Ⅲ-①②③④⑤ Ⅳ-②③④⑤ Ⅵ-①②⑤	法人老人ディ	・ソーシャルアクションの取り組みを提案することができる①（地域の課題に対するソーシャルアクションを提案することができる）	地域で起きている課題に関するソーシャルアクションの取り組みに関する講義と演習 ・ソーシャルアクションとは ・ソーシャルアクションに取り組む意義 ・地域におけるソーシャルアクションの実践	オンデマンド教材→課題シート→クラス指導（Zoom）→実習日誌	10月26日		
10月29日	木	23日	目	SW実習	(5) (20) (21)	Ⅲ-①②③④⑤ Ⅳ-②③④⑤ Ⅵ-①②⑤	法人老人ディ	・ソーシャルアクションの取り組みを提案することができる②（社会的な問題に対するソーシャルアクションを提案することができる）	社会全体を視野に入れたソーシャルアクションの取り組みに関する演習 実習生自身が設定した社会的な問題（課題認識）とそれに対するソーシャルアクションの提案	オンデマンド教材→課題シート→クラス指導（Zoom）→実習日誌	10月26日		
10月30日	金	24日	目	SW実習				実習の成果を整理し、プレゼンテーションすることができる	「実習全体のまとめ」作成、発表	学内対面実習→実習日誌	—		

図3 社会福祉学部 ソーシャルワーク実習（代替実習）プログラム

### 3. 実施体制

最後に、代替実習の実施体制について記しておく。

今回は95人という大規模な実習を行ったため、複数の教員で分担した。代替実習総括担当者、月曜日から木曜日のクラスを担当する代替実習担当者、大学で行う金曜日のクラス担当者、15日目～18日目の個別支援計画作成実習担当者、そして学生が元々所属していた通年の実習指導クラス教員が存在する。代替実習担当者として実習オリエンテーションを含む201コマの授業を担った教員は22人、代替実習の巡回指導に相当する実習スーパービジョンを担った実習指導Ⅱクラス教員は21人であった。

ただし教員数が豊富なわけではないので、一人の教員が複数の役割を果たすことになったため、9月・10月に実施した現場実習と10月に実施した代替実習、という二重の負担が生じたことを記しておく。

具体的な役割分担は表1のとおりである。

表1 代替実習での教員の役割分担

教員の役割分担	
代替実習統括担当者	<ul style="list-style-type: none"> <li>①代替実習対象学生の把握とクラス編成を行う。</li> <li>②現場実習と代替実習を組み合わせて実施する学生について、実習指導Ⅱクラス教員が出席を指定する代替実習日を把握する。</li> <li>③①②について対象学生リストを作成し、代替実習担当教員と実習指導Ⅱクラス教員がGoogleドライブで共有・閲覧できるようにする。</li> <li>④WEB上に「ソーシャルワーク代替実習」クラスの部屋を設定、管理、各教員にZoomミーティングルームURL設定の手配、対面授業用教室の手配を行う。</li> <li>⑤代替実習終了後、出席簿のトータル日数（時間数）を確認する。</li> <li>⑥Googleドライブのクラス学生名簿で欠席学生を把握し、レポート課題を学生にメールで指示する。→学生からレポート提出を受け、実習指導Ⅱクラス教員に引き渡す。</li> </ul>
代替実習担当教員 (月～木曜4限担当)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①当日クラス指導の前提として、学生が視聴するオンデマンド教材と課題シートの内容を確認しておく。</li> <li>②当日のクラス指導で行う内容（オンデマンド振り返り、課題シートを踏まえたグループワークのテーマ、プレゼンテーション等）の予定をたてる。</li> <li>③当日担当するクラス学生リスト（Googleドライブ）を確認する</li> <li>④クラス指導開始5分前に、あらかじめ学生に周知したZoomミーティングルームを立ち上げる。</li> <li>⑤グループワークはブレイクアウトセッションを活用する。</li> <li>⑥クラス指導の終わりに、実習日誌、課題シートの当日作成、提出を指示する。</li> <li>⑦欠席学生がいる場合は、Googleドライブの各クラス出席管理表に「欠」印を記入する。</li> </ul>
代替実習担当教員 (金曜4限/5限担当)	<p>4限：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①～③上に同じ</li> <li>④対面授業を行うため指定の教室に向かう。</li> </ul> <p>5限：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑤クラスの学生から、前週金曜～今週木曜までの実習日誌（学生が印刷して記録ファイルに綴じたもの）を受け取り、その場で記入漏れがないかどうか確認のうえ、押印する。</li> <li>⑥日誌の確認ができれば、出席簿にも押印する。</li> <li>⑦クラス指導の終わりに、実習日誌、課題シートの当日中作成、提出を指示する。</li> <li>⑧4限クラスに欠席学生がいる場合は、Googleドライブの各クラス出席管理表に「欠」印を記入する。</li> </ul>

代替実習担当教員 (15～18日目：個別支援 計画作成実習担当)	①学生はこの実習に先んじ、10日目～12日目にオンデマンド教材で個別支援計画の作成を学ぶようになっているため、担当教員はオンデマンド教材と課題シートの内容をあらかじめ確認しておく。 ②4日間のプログラムの進め方を、分野別チームの教員間で打ち合わせる。 ③事例提供いただく実習指導者（ゲスト講師）を決め、依頼する。手続きは通常講義のゲスト講師依頼と同じ。（1日目、4日目は来校いただく方向で調整。2日目、3日目はZoomも可） ④当日担当するクラス学生リスト（Googleドライブ）を確認する。 ⑤対面授業を行うため指定の教室に向かう。 ⑥クラス指導の終わりに、実習日誌の当日中作成、提出を指示する。 ⑦遅刻・早退・欠席の学生がいる場合は、Googleドライブの各クラス出席管理表に「欠」印を記入する。
実習指導Ⅱクラス教員	①実習中止の連絡が入ったら、代替実習に移行できるよう、事務室と代替実習統括担当者に連絡する。 ②実習施設の要請により現場実習と代替実習を組み合わせて実施する場合は、4～⑥の手順で、実習スケジュールを調整して、代替実習統括担当者に連絡する。 ③代替実習期間中、「ソーシャルワーク代替実習」科目ホームにアクセスし、「個別課題シート」と「実習日誌」が毎日滞りなく提出されているかどうか確認する。 ④代替実習を行っているクラス学生の実習スーパービジョンを行う。代替実習期間中、概ね週1回のペースで3回、当該学生と日時を決めてZoomまたは対面で行う。できるだけ、クラスの代替実習生をいちどきに集めて実施する（代替実習生が多いクラスの場合は、実施しやすい人数にグルーピングする）。3回のうちの1回は、実習期間中に行うクラスの帰校指導に出席させてもよい。 ⑤スーパービジョンを行うために、週1回大学のICT担当者より提供される学生の「オンデマンド視聴履歴」を確認する。「ソーシャルワーク代替実習」科目ホームから毎日提出される「課題シート」「実習日誌」から学生の学習状況を確認する。 ⑥現場実習と代替実習の組み合わせによるスケジュールで、代替実習最終日に出席しない学生には、「実習全体のまとめ」の作成を指導する。 ⑦代替実習終了後に「代替実習評価表」を記入する（現場実習と組み合わせる場合は、代替実習部分を評価する）。 ⑧「代替実習評価表」と「代替実習出勤簿」を確認証明（署名押印）し、事務室に提出する。

### Ⅲ. 研究方法

#### 1. アンケート調査の実施

代替実習が終了した2020年11月に、受講生95人を対象にGoogleフォームによるアンケート調査を実施した。項目は、4件法または5件法で回答を求めた、代替実習プログラムを通しての学びの程度、実習方法の違いによる学びの程度、対面とリモート指導の割合の希望、全体の満足度と、自由記載を求めた代替実習全体に関する感想等である（巻末資料参照）。

95人中83人から回答を得たため、回収率は87.7%であった。

#### 2. アンケート調査の分析方法

アンケート調査のデータは2つの方法で分析する。

4件法または5件法で回答した項目については、グラフにより結果を可視化する量的分析を行う（分析結果

①)。

自由記載での代替実習全体に関する感想については、テキストマイニングによる共起ネットワークの提示により、質的な傾向を明らかにする（分析結果②）。

倫理的配慮については、回答は任意でありメールアドレスも含めて個人を特定する情報は収集していない。そのため、アンケートへの回答は成績評価とも無関係である。

#### Ⅳ. 分析結果① 量的分析

##### 1. 実習方式

まず実習方式は、24日間全て代替実習が69人（83.1%）、現場実習と代替実習の組み合わせが14人（16.9%）で、回答者の8割が代替実習のみの実施であった（図4）。

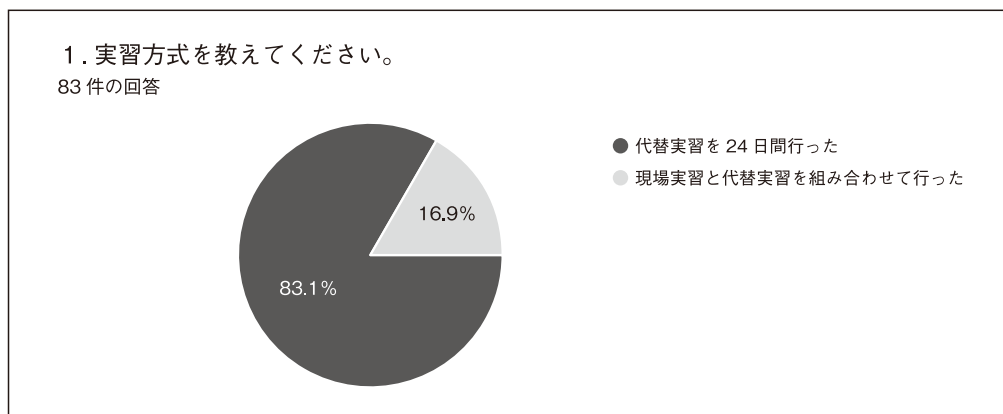


図4 実習方式

##### 2. 当初予定していた実習分野

当初予定していた実習分野は、83人中59人（71.1%）が高齢分野、9人（10.8%）が障害分野、15人（18.1%）が児童分野であった（図5）。

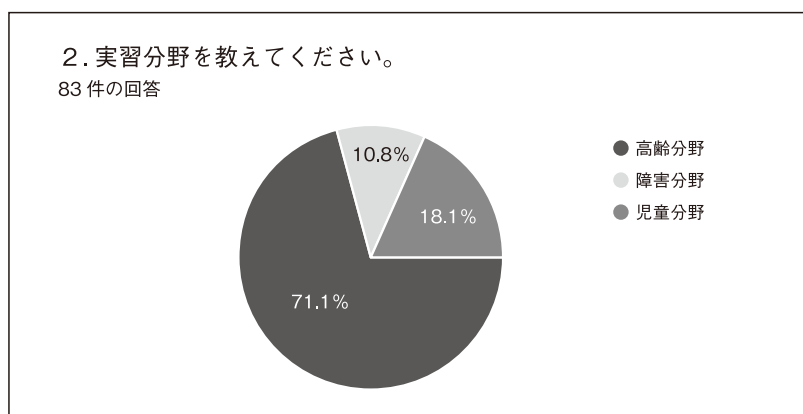


図5 当初予定していた実習分野



### 3. 代替実習プログラムを通しての学びの程度

次に、学びの深まりについて代替実習プログラムの過程を8期に区切って聞いたところ、時期によって学びの程度が異なっていた（図6）。

最も「学びが深まった」「学びがやや深まった」と回答した人が多かったのは、個別支援計画作成のため大学で行った15日目からの週である。他の週がオンデマンドコンテンツを視聴してワークシートに取り組む方式での学習のため、一人で受け身的に学ぶことになるが、個別支援計画作成は対面で小グループに分かれて自分達のケアプランを作成するため、仲間と刺激し合いながら主体的に学ぶ機会を得たためと考えられる。

また、「学びが深まらなかった」と回答したのは、現場実習と代替実習を組み合わせで行った学生であり、代替実習における個別支援計画作成プログラムを受講していないため、このような回答となったと思われる。

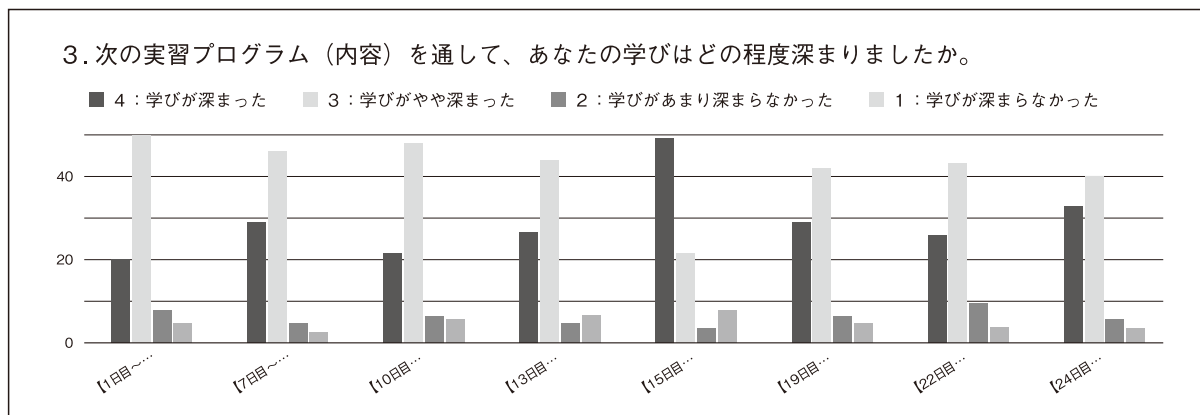


図6 プログラム実施時期による学びの程度

### 4. 実習方法の違いによる学びの程度

次に、実習方法の違いによる学びの程度を6項目で聞いたところ、やはり「対面による個別支援計画作成」で「学びが深まった」と回答した人が最も多く、次いで「対面によるクラス指導」（金曜日）、「リモート（Zoom）によるクラス指導」を挙げていた（図7）。このことから、一人で学ぶよりも集団での学び、リモートよりも対面での学び、週1日だけよりも継続的な対面授業の効果が大きいことがうかがえる。

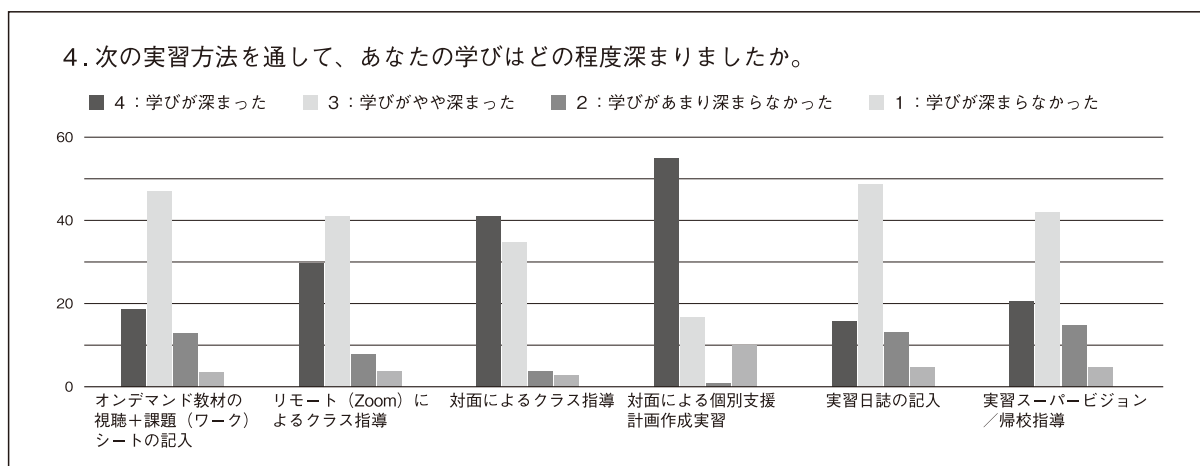


図7 実習方法の違いによる学びの程度

## 5. 対面とリモート指導の割合の希望

次に、対面とリモート指導ではどれくらいの割合を希望するかを5件法で聞いたところ、「全て対面で行った方が良い」が9.6%、「対面が多い方が良い」が54.2%であり、全体の64%は対面が多い方が良いと回答している（図8）。

この割合は回答者の過半数を超えているが、図7の結果に照らし合わせると意外と少ない感じを受ける。おそらく、代替実習での対面クラスが前期から所属してきた実習指導Ⅱのクラスと異なり、メンバー同士の人間関係形成期間が短いことや、遠方から通学する学生にとって、大学に集まることの煩わしさも影響していたのではないかと考えられる。

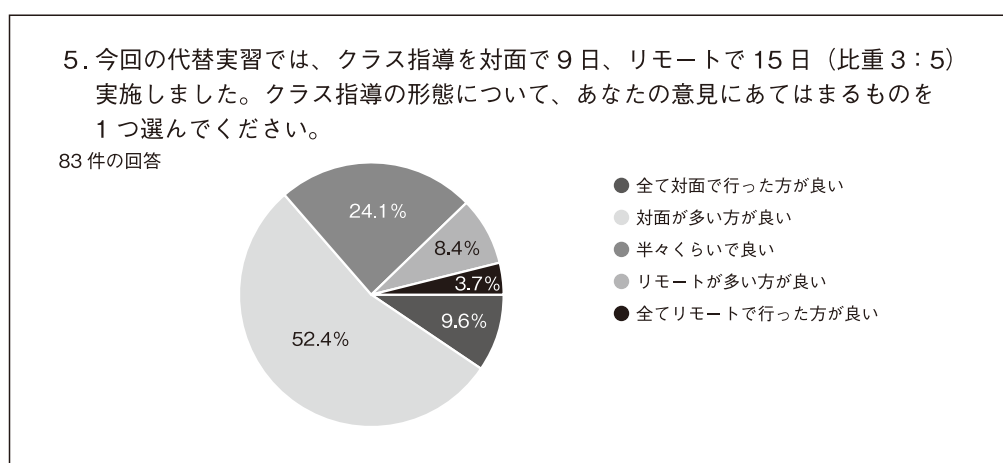


図8 対面とリモート指導の割合の希望

## 6. 代替実習全体の満足度

最後に代替実習全体の満足度を4件法で聞いたところ、「たいへん満足」「満足」が約71.0%であったのに対し、「不満」「とても不満」が29.0%と3割の学生が不満と回答していた（図9）。

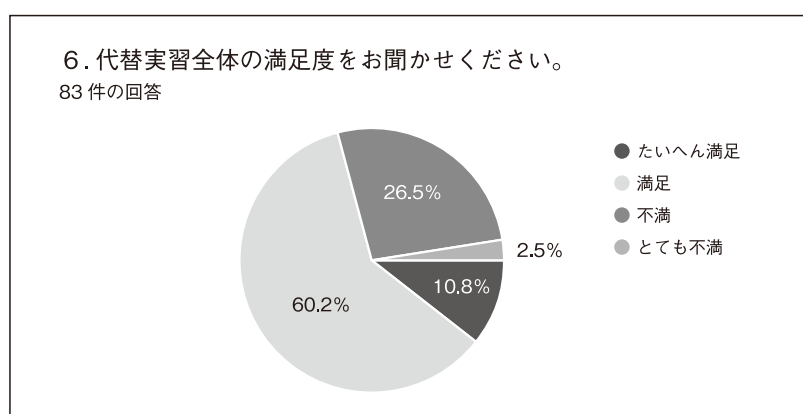


図9 代替実習全体の満足度

学生が視聴したオンデマンドコンテンツが高齢者領域での実習を想定した内容が中心だったため、他領域で実習を予定していた人の満足度はどうかをみてみた。その結果、図10の結果となった。

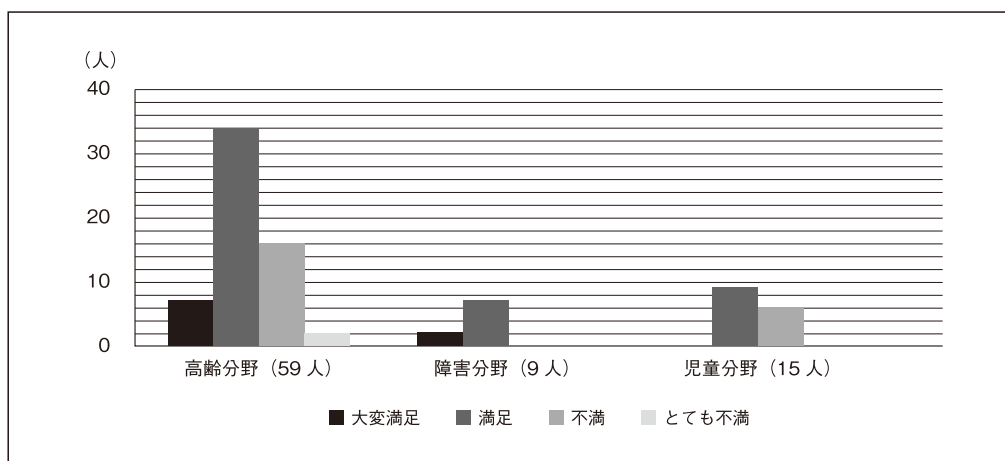


図10 分野別満足度

「大変満足」「満足」の割合は、高齢分野が69.5%、障害分野が100%、児童分野が60%であった。それらの意見は、下記の記述に代表される。

- ・（障害分野）オンライン形式ということもあり、学び方によっては得られる学びの大きさに差が大きく生まれると思うが、主体的に取り組めればとても広く学べるため、個人的にはとても満足している。
- ・（高齢分野）自分が学ぶはずだった分野以外のものも学ぶことができて良かった。個別支援計画の作成をグループで行ったことで、多方面からの視点で考えることができた。また、同じプログラムで実施していたからこそ、他の実習生とのグループワークで、さまざまな気づきがうまれて面白かった。

以上の意見からは、主体的に学ぶことで広く多面的に学べたことが満足度を高めていることがうかがわれる。

一方、「不満」「とても不満」の割合は、高齢分野が30.5%、障害分野が0%、児童分野が40%であった。また、「とても不満」の2人はいずれも高齢分野であった。それらの意見は、以下の記述に代表される。

- ・（児童分野）通常の実習とは異なり、高齢、障害、児童のすべての分野を学ぶことができたことは良かったと感じる。しかし高齢にあまりにも偏りすぎており、児童に関しては1日しかなかったため、今でも実習に行きたかったという気持ちのほうが強い。
- ・（高齢分野）代替実習に関して、率直な感想としては一日にこなさなくてはならないことが多く、とにかくそれに取り組むこと、終わらせることに必死になってしまい、じっくりと考えながら理解を深めていくということが個人的にはあまりできなかった。
- ・（高齢分野）先生、一人ひとりの意見が違ったので理解がしにくかった。できればクラス事で変えるのではなく統一していただけるとありがたかった。
- ・（児童分野）課題が基本的に、取り組んでそのままになるため、学ぶ実感が持ちにくかった。クラス指導等で課題に関する共有を行った際は比較的学びを実感できたが、共有できたものもごく一部に限られてしまっていた。
- ・（高齢分野）代替実習にもお金はかかるのかもしれないが、やはり現場に行けている人のことも考えると、金銭的に少し悩むところでもあるなと思った。

以上のことから、不満の理由は当初予定の実習先とオンデマンドコンテンツの内容の違いのみに起因するのではなく、現実の施設現場に行けなかったことや、毎日の課題に伴う負担の大きさ、教員の対応の統一性が取れていなかったこと、学内での実習にもかかわらず現場実習と同じ高額な実習費の支払いに起因することがうかがえる。

なお、障害分野で「不満」「とても不満」が0人だった理由は明らかではないが、自由記載では「今回、実習する場が無くなってしまったが代替実習で学習する場を設けていただけて本当に良かった」という意見のように、共感性を伴う記載が見られた。

## V. 分析結果② テキストマイニングによる分析

### 1. 全体の感想

#### ①語の出現頻度と特徴

ここでは、自由記載のデータ「7. 代替実習で、今回実施した実習プログラム以外で経験したかったことがあればお聞かせください」（以下、実習プログラム以外での希望）、「8. 代替実習全体に関する感想をお聞かせください」（以下、全体の感想）について、テキストマイニングにより傾向を明らかにする。分析ツールにはKH Coderを使用した。

最初に、58人が記述した全体の感想についてみていく。前処理（形態素解析）後に、抽出語リストを作成した（表2）。ここでは、以降の分析の解釈が十分に可能と考えられる出現頻度「5」以上を閾値とした。出現頻度の最多は「思う（35回）」、「実習（35回）」で、次いで「学ぶ（27回）」、「代替実習（25回）」、「分野（25回）」、「感じる（23回）」となった。

多くは代替実習の内容に関連する語であるが、なかには感情を表す「ありがとう」「大変」「不安」があった。KWICコンコダンスで確認したところ、「ありがとう」は全て教員に対する感謝、「大変」は5語中3語が課題ワークシートに取り組むこと、1語は個別支援計画作成、もう1語は教員が大変だったことのねぎらいであった。「不安」は5語中3語が代替実習開始前の不安、1語は教員に不安や悩みを聞いてもらえたこと、もう1語は教員により対応が異なることへの不安であった。

このことから、教員への感謝の気持ちが見られる一方で、毎日の課題ワークシートの負荷が大きいこと、現場実習から急遽代替実習に変更になったことでイメージが湧かず、当初は不安を抱えていた学生の姿が伝わってきた。

表2 抽出語と出現頻度・全体の感想

抽出語	出現頻度	抽出語	出現頻度
思う	35	違う	7
実習	35	課題	7
学ぶ	27	学び	7
代替実習	25	高齢	7
分野	25	人	7
感じる	23	本当に	7
先生	19	ありがとう	6
多い	19	課題シート	6
クラス	17	質問	6
自分	16	取り組む	6
現場	15	出来る	6

オンデマンド	12	対面	6
行う	12	大きい	6
考える	11	聞く	6
時間	11	毎日	6
良い	11	教員	5
作成	10	講義	5
学べる	9	今後	5
個別支援計画	9	増やす	5
指導	9	大変	5
他	9	長い	5
意見	8	動画	5
今回	8	得る	5
施設	8	不安	5
障害	8	分かる	5
		量	5

## ②共起ネットワーク

次に、抽出語と抽出語が共に出現する関係性を視覚化する、共起ネットワークを作成した（図11）。

この図から読み取れるのは、「教員に質問ができること」、「教員に感謝していること」の一方で、やはり「毎日大変」だったこと、「課題シートの量が多いと感じている」こと、「動画の時間が長い」と感じていることである。また、「クラスで指導を受けることにより、人と一緒に考える」様子も捉えることができる。

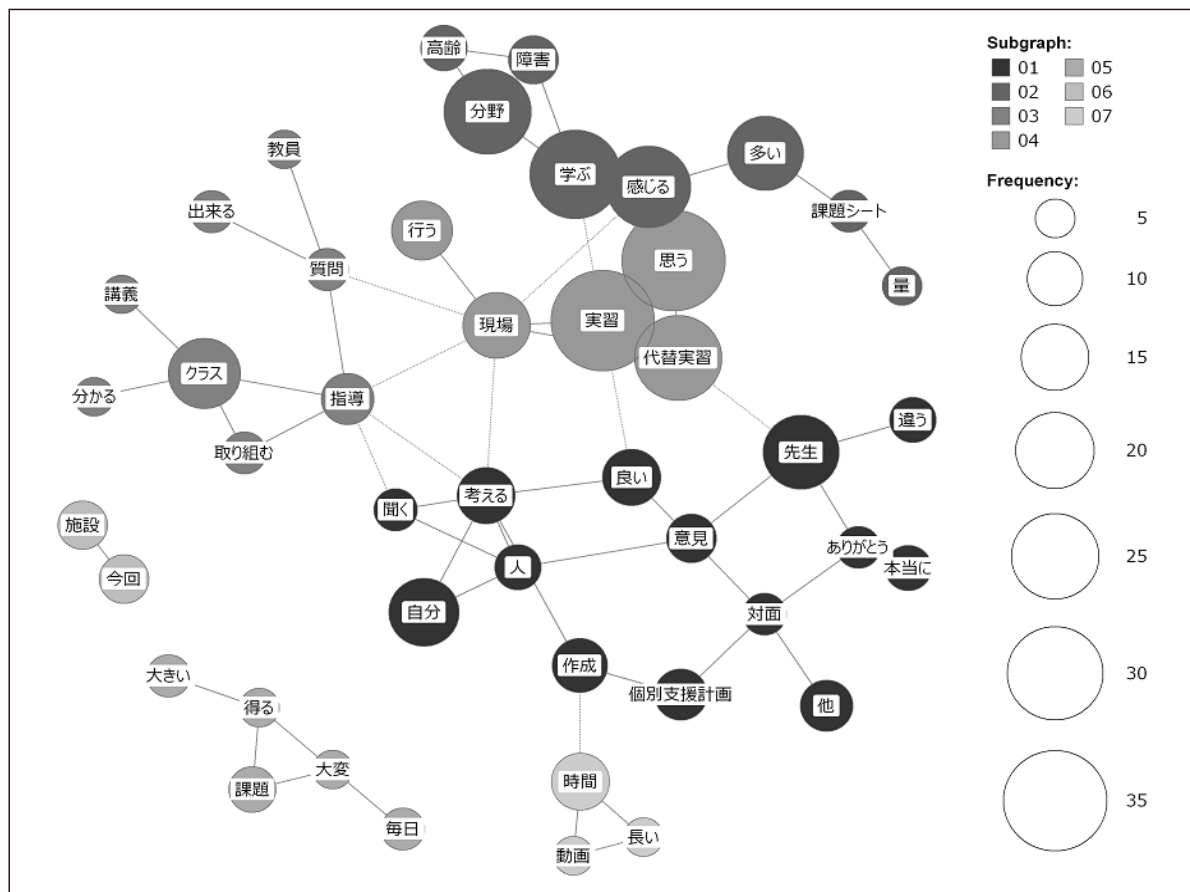


図11 共起ネットワーク



## 2. 実習プログラム以外での希望

### ①語の出現頻度と特徴

次に、実習プログラム以外での希望についてみていく。ここでは、28人と回答が少なく抽出語自体が少ないため、出現頻度「2」までを示した（表3）。

出現頻度の最多は「利用（9回）」、「特に（6回）」、「分野（6回）」、次いで「個別支援計画（5回）」、「作成（5回）」、「施設（5回）」、「実際（5回）」であった。実習方法としては、「個別支援計画」、「アセスメント」、「コミュニケーション」という語がみられ、KWICコンコーダンスで確認したところ、それらは実際の利用者と対面しての実施の希望であった。

表3 抽出語と出現頻度・実習プログラム以外で経験しなかったこと

抽出語	出現頻度	抽出語	出現頻度
利用	9	職種	3
特に	6	話し合い	3
分野	6	もう少し	2
個別支援計画	5	プログラム	2
作成	5	学び	2
施設	5	感じる	2
実際	5	関わる	2
アセスメント	4	機会	2
学ぶ	4	経験	2
見る	4	行く	2
行う	4	時間	2
思う	4	自分	2
児童	4	取り入れる	2
実習	4	選択	2
様子	4	対面	2
良い	4	面接	2
コミュニケーション	3	欲しい	2
現場	3		

### ②共起ネットワーク

次に、共起ネットワークを作成した（図12）。ここから読み取れることとして、「現場に出向き対面でのアセスメントを行いたい」こと、「自分で学びのプログラムを選択する」こと、「施設で実際の様子を見ながら個別支援計画を作成する」ことである。

このことから、現実との接点を増やしてほしい、学ぶ内容を主体的に選択したいという希望がうかがえる。

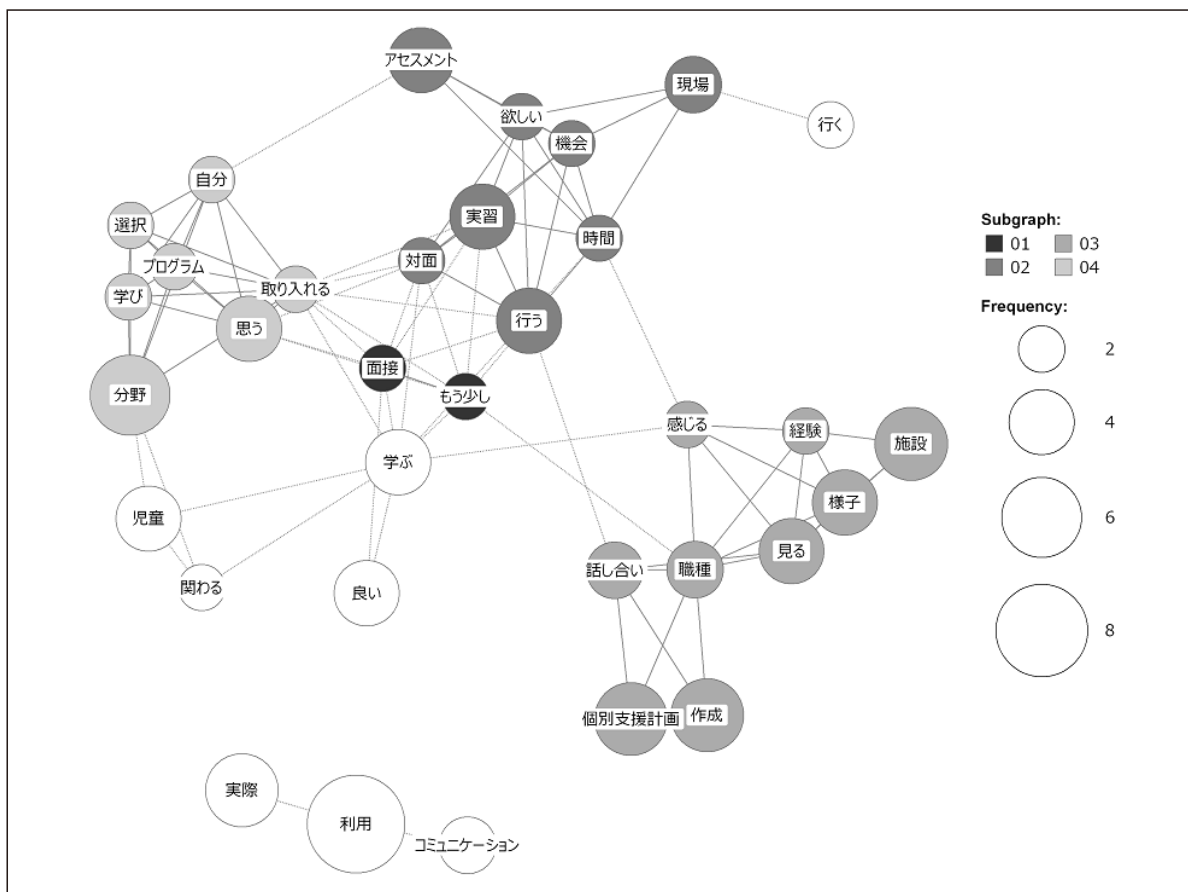


図12 共起ネットワーク・実習プログラム以外での希望

## VI. 代替実習の成果と今後の課題

### 1. 代替実習の成果

最後に、代替実習の成果と課題をまとめる。

最大の成果は、手探りのなかから代替実習という学びのスタイルを構築したことである。ここでは大きく2点が評価できる。

一つは、24日間のプログラムと教材を作成したことである。まず1日の流れとして、オンデマンドコンテンツの視聴、課題ワークシートの作成、Zoomによる振り返りと共有、日誌の作成という型をつくることができた。また、今回使用したオンデマンドコンテンツは、厚生労働省の実習カリキュラムおよび一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟の実習ガイドラインを網羅するもので、学生達にとっては広く多様な知識を得るには十分な内容であったと考える。今後、代替実習以外にも教材として活用することが可能である。加えて、途中で個別支援計画作成にむけた大学で実施する4日間を設けたことにより、一人で学ぶよりも学びの効果が上がっていた。

二つ目は、代替実習の実施体制が構築できたことである。教員間での役割分担のもと各担当の責任を明確にしたこと、代替実習総括担当者と運営委員を置き、生じた課題を臨機応変に検討・対応したことにより、大きな問題なく終えることができた。

次年度以降も、コロナの状況により現場実習ができない学生が生じる可能性がある以上、2020年度に代替実習の基盤形成を行ったことは、今後に生かせる成果といえよう。

## 2. 今後の課題

一方、今後の課題も山積している。3割の学生が不満を抱いていたため、それに対する対応が求められる。その内訳は5点ある。

一点目は、オンデマンドコンテンツに内容の偏りがあったことである。今回は時間に追われるなかで一通りの教材作成を目標にしたこともあり、高齢分野中心の内容となった。そのため、事前学習で本来自身が行くはずの別分野の学習を行っていた学生にとっては、事前学習との相違に不満を感じていたことがうかがえた。そのため、今後は障害分野、児童分野のオンデマンドコンテンツも作成し、事前学習との齟齬を防ぐことが求められる。

二点目は、現場に行けないこと自体の不満である。コロナ下でこの点は如何ともしがたいが、更なる工夫の余地はあると考える。具体的には、実習現場とリモートでつなぎ現場の様子をLiveで視聴できるようにする、実習指導者の方により多くゲスト講師として登壇していただく等である。

三点目は、毎日のオンデマンドコンテンツ視聴と、課題シートの負担が大きいことである。ともすると半日以上かけて一人で取り組まなければならない、それらの積み重ねが学生の心身に負担をかけている現状が明らかとなった。これについては、学生の実習に必要な知識を選択しコンテンツの視聴箇所を絞って伝えることと、課題量の調整が求められる。

四点目は、教員間での統一がはかれていなかった点である。今回はとにかく実施できる教員全てが分担して担当したため、学生の振り返りの方法にばらつきが生じる結果となった。今後は、今回ほど担当が分散しない教員体制を検討するとともに、教員間での質の相違が生じないように振り返り内容の定式化を行う等、教員間での統一をはかることが必要である。

そして五点目は、現場実習と同額の実習費に対する不満である。これについては、代替実習に係る費用の試算を行ったうえで、必要であれば担当部署との調整を行うなかで、適正な負担額を課す方策を検討していく必要がある。

以上、社会福祉学部での代替実習の成果と課題をみてきた。最後に、重い負担のなかで実習を乗り切った学生には心からの労いを、代替実習を担当した教職員には感謝の意を表したい。

### 引用文献

文部科学省と厚生労働省（令和2年2月28日）「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について」

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（令和2年4月3日）「会長声明 新型コロナウイルス感染症拡大傾向に伴う社会福祉士及び精神保健福祉士養成教育に対する考えについて」

## 資料 代替実習に関するアンケート調査票（実習生）

### 代替実習に関するアンケート（ご協力をお願い）

みなさん24日間、よくがんばって代替実習を終了されました。ハードなスケジュールで心も身体も大変だったと思います。ほんとうにお疲れさまでした。

実習受入れが中止になった皆さんに、なんとか国家資格取得を目指してもらえよう、大学としてできるかぎりのリソースを投入して代替実習のしくみを準備しました。しかし、ゼロから手探りで創った代替実習のしくみですので、もし来年度もコロナ禍で現場実習が行えない状況が続くようであれば、このしくみの課題点を改善して臨む必要があると考えています。

つきましては、実習生の皆さんの感想、意見をお聞かせいただきたく、アンケートに回答いただければと存じます。科目ホームの「代替実習に関するアンケート」、または以下のURLよりGoogleフォームにアクセスできますので、ぜひご協力をお願いします。

#### 1. 実習方式を教えてください。

- ・代替実習を24日間行った
- ・現場実習と代替実習を組み合わせで行った

#### 2. 実習分野を教えてください。

- ・高齢分野
- ・障害分野
- ・児童分野

#### 3. 次の実習プログラム（内容）を通して、あなたの学びはどの程度深まりましたか。

【1日目～6日目：職場実習】	法人が運営する各施設・事業の理解、多職種理解、地域理解
【7日目～9日目：職種実習】	老人デイサービスセンター生活相談員の業務理解
【10日目～12日目：SW実習】	個別支援計画の作成（老人デイサービスセンター）
【13日目～14日目：SW実習】	特別養護老人ホームにおけるソーシャルワークの理解
【15日目～18日目：SW実習】	個別支援計画の作成（各分野）
【19日目～21日目：SW実習】	社会福祉法人・施設の地域に対する取り組み、権利擁護の理解
【22日目～23日目：SW実習】	ソーシャルアクションの取り組みの理解
【24日目】	実習全体のまとめ、プレゼンテーション

- ・学びが深まった
- ・学びがやや深まった
- ・学びがあまり深まらなかった
- ・学びが深まらなかった

4. 次の実習方法を通して、あなたの学びはどの程度深まりましたか。

オンデマンド教材の視聴＋課題（ワーク）シートの記入
リモート（Zoom）によるクラス指導
対面によるクラス指導
対面による個別支援計画作成実習
実習日誌の記入
実習スーパービジョン／帰校指導

- ・学びが深まった
- ・学びがやや深まった
- ・学びがあまり深まらなかった
- ・学びが深まらなかった

5. 今回の代替実習では、クラス指導を対面で9日、リモートで15日（比重3：5）実施しました。クラス指導の形態について、あなたの意見にあてはまるものを1つ選んでください。

- ・全て対面で行った方がよい
- ・対面が多い方がよい
- ・半々くらいでよい
- ・リモートが多い方がよい
- ・全てリモートで行った方がよい

6. 代替実習全体の満足度をお聞かせください。

- ・たいへん満足
- ・満足
- ・不満
- ・とても不満

7. 代替実習で、今回実施した実習プログラム以外で経験したかったことがあればお聞かせください。（自由記述）

8. 代替実習全体に関する感想をお聞かせください。（自由記述）